	書名	著者名	請求記号
1	世界の出産：儀礼から先端医療まで	松岡悦子、小浜正子編	385/Ma
2	解剖医ジョン・ハンターの数奇な生涯	ウェンディ・ムーア著、矢野真千子訳	289/Mo
3	大笑い！精神医学：精神医学を100％否定する理由	内海聡著、めんどぅーさマンガ	493.7/Ut
4	スパイス、爆薬、医薬品：世界史を変えた17の化学物質	ペニー・ルクーター、ジェイ・バーレサン著	430/Le
5	歴史を変えた10の薬	トーマス・ヘイガー著、久保美代子訳	499.1/Ha
6	世にも危険な医療の世界史	リディア・ケイン、ネイト・ピーダーセン著、福井久美子訳	490.2/Ka
7	毒と薬の文化史：サプリメント・医薬品から危険ドラッグまで	船山信次著	499.02/Fu
8	Disease：人類を襲った30の病魔	Mary Dobson著、小林力訳	490.2/Do
9	感染症の近代史	内海孝著	498.6/Ut
10	病が語る日本史	酒井シヅ著	490.2/Sa
11	薬学の歴史	ルネ・ファーブル、ジョルジュ・ディルマン著、奥田潤、奥田陸子共訳	499.02/Fa
12	長井長義とテレーゼ：日本薬学の開祖	飯沼信子著	499.028/1

世界の出産

儀礼から先端医療まで

どんなに文明が進化してもかわらない
女性が妊娠し出産するというプロセス。
医療が介在しない場所で行われる、出産・産後の
様式と慣習、出産＝産科医療が常識と
なっている国での検診、出産・産後の過ごし方に
おける歴史と文化、現状と問題点に多角的に
アプローチした本です。

解剖医 ジョン・ハンターの数奇な生涯

ウェンディ・ムーア著

墓泥棒たちと結託し、子どもから妊婦まで
ありとあらゆる死体を手に入れ解剖しまくった
ジョン・ハンター。ぶっきらぼう物言いで無作法にふるまい
ながらも、メスをさばく腕は繊細で天才的だった彼は
標本作製から生きた人間の外科手術、性病の人体
実験に生体歯牙移植（これは完全に失敗）、エンバーミング
まで、知的好奇心のおもむくままに生き伝説を残した。
医学の進歩はジョン・ハンター抜きでは語れないのだ。

大笑い！精神医学

著 内海 聡
マンガ めんどうーさ

『精神医学を100%否定する理由』

タイトルにも書かれているように、精神医学を"否定"した視点で説明されています。そのため、全てを鵜呑みにするのではなく、あくまで参考程度に読むことをおススメします。歴史・精神病・治療薬などについて4コママンガで表現されているため、分かりやすく読みやすいですが、背筋が凍るような内容で驚きます。

スパイス、爆薬、医薬品

世界史を変えた17の化学物質

原題は"Napoleon's Buttons"。ナポレオンのロシア遠征が失敗だったのは軍服のボタンが錫だったため寒さで粉々になったせいという説があるのはご存じですか？人類の発展のさまざまな局面で重要な役割を果たした化学物質の解説をする本書、化学の歴史ではなく歴史における化学というアプローチで専門でなくとも興味深く読み進められるユニークな有機化学入門書です。

歴史を変えた10の薬

『私たち、ホモ・サピエンスは薬の民だ』と著者が言うように、人間は健康に過ごすために多くの薬を服用しています。自分の健康、ひいては未来の安泰のために努力を惜しみません。そんな願いを叶えてくれる薬の影には沢山の実験、偶然、打算がありました。
危険な副作用を持つ薬と呼んで良いのか謎な物質や偶然と大胆な実験から発見された予防接種など人類が辿ってきた薬の歴史を
紐解いてみましょう!

世にも危険な医療の世界史

『風邪をひいたら、長ねぎを首に巻くと良い』、『のどの調子が悪い時は梅干しを白湯に入れて飲むと良い』など、おばあちゃんの知恵袋を耳にしたことがあるでしょうか。それがかわいく見えるような過激で恐ろしい医療の過程があります。ヒ素、アヘン、コカイン、水銀…今聞けば、誰でも危ない物質だと分かるこれらが万能薬として扱われていた時代がありました。今の医療の礎になった…かどうかは分かりませんが、人間の生存本能の暴走とも言える仄暗い歴史を覗いてみましょう。

有名ドリンクの見る目が変わるかも!?

毒と薬の文化史

サプリメント・医薬品から危険ドラッグまで

「薬も過ぎれば毒となる」といわれるように、薬と毒の境界線はあいまいです。体に良いからといって摂り過ぎれば、かえって体調を崩すことになります。反対に毒を使って利益を得ようとする恐ろしい事件も残念ですが、多く起きています。
長い歴史の中で、暗躍する毒やドラッグ、医薬品の開発や失敗など過去の経験、教訓を顧みつつ、これからの薬学や薬品開発、薬剤師として出来ることを色々な方向から考えられる1冊になっています。ニュースで取り上げられたあの事件も語られているので、そちらも必見ですよ!

Disease　人類を襲った30の病魔

Mary Dobson 著　小林力 訳

数千年前から現代まで、人類の歴史に重大な影響を及ぼしてきた多くの病気の中から、30の病気を厳選し、その概略と歴史を紹介した本。当時の挿し絵や文章、写真、1つ1つの病気の発生から近年までの年表など、各ページの資料も充実し、社会科の資料集もしくは図録のような一冊で、何世紀にもわたって人々が体験した想像を絶する苦しみや悲劇、社会の混乱、その中で病気の発見や診断、治療に努めた研究者たちの業績の偉大さが伝わってきます。コロナ禍の今、私たちも地球上に生きる人類の歴史の続きを歩んでいるのだと考えさせられます。

感染症の近代史・内海孝

約200年前、19世紀の日本においても、コレラは大流行しました。魚が売れず、料理屋がつぶれ、棺は間に合わず、寺社は片時も暇がなかった。(P22) 医師が殴撃され死亡したり(P85) ココ、愛知県、千種村でも、避病院（伝染病専門病院）に患者が移されると聞くと、病院を焼き払えと1000余人が結集した(P87 l10) そうです。コレラは伝染するにあうず、と病者の吐瀉物を食べて死亡した(P87 l6) といった馬鹿な人が出てくるのも、現代にも通じるところがあります。明治時代ごろの"多くの日本人は清潔を最善と思わない"(P52 l10) といった感覚だったのは、今の清潔志向を思うに信じられないかもしれません。そこまでに至るのに、多くの人々の努力と献身があったのでしょう。今年の大河にもかぶる時代の話です、ぜひ読んで下さいね。

病が語る日本史

酒井シヅ

「歴史は人の営みとともに、病気との闘いの歴史でもあった」縄文人の骨からはポリオが見つかり、記紀の記録にも疫病がたくさん出てきます。マラリア、寄生虫、ガンに眼病、そしてコレラ、天然痘といった病気と人々は戦ってきたのです。コロナ禍の今もまた、歴史の上に乗ってしまえば、めずらしいことではないのかもしれませんね。それでも早く終息してほしいですが。

タイトル
薬学の歴史
HISTOIRE DE LA PHARMACIE

著者　ルネ・ファーブル（フランス 薬理学者）
ジョルジュ・ディルマン（パリ大学薬学部教授 薬史学担当）

出版社　白水社

フランス・パリは人気の海外旅行先です。行けば、街で
✚PHARMACIEの看板を見かけることでしょう。

1777年 ルイ16世の国王宣言で 薬学の公教育を正式に設けた

1803年 ナポレオンがジェルミナール法で薬剤師認定や薬局経営を再確認

調剤師（アポティケール）から薬剤師（ファルマシアン）へ。フランスの調剤・薬剤・薬局・薬学教育・試験科目等の歴史の本。

ルイ16世 (1754-1793)

ナポレオン (1769-1821)

長井長義とテレーゼ
日本薬学の開祖

飯沼信子著

日本薬学の創始者の一人 長井長義とテレーゼ夫人の伝記。長井長義は、明治4年に第一回海外留学生としてドイツに渡航。明治17年に帰国後は、東京大学薬学科教授、大日本製薬技師長として日本の薬学の先導者になった人です。ドイツ人のテレーゼ夫人とともに女子教育にも力を注いでいます。

愛知学院大学
歯学・薬学図書館情報センター

コンセプトコーナー　2021年 4月

病と医学の歴史 ～先人たちの試行錯誤がもたらしたもの～